

慈雲

9号

2009/6

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zui renji@nifty.com

SinsyuuOotaniha

JiunzanZui renji

Jiunkai

有一太子
名阿闍世
隨順調達

【表紙の言葉】

「ういちたいし みょうあじやせ有一太子名阿闍世

ずいじゆんじょうだつ隨順調達」

（一人の太子あり、阿闍世と名づけき。調達に隨順して、）

「調達」とは釈尊のい
ところであるダイバダッ
タのことです。ダイバダ
ッタは釈尊をねたみ、そ
の教団を乗っ取ろうと
企てて王子である「阿闍
世」をそそのかします。

阿闍世はダイバダッ
タの企みに乗り、父であ
るビンバシヤラ王を幽
閉してしまいます。これ
が「王舎城の悲劇」の始
まりです。

そう考えればダイバ
ダッタはどうしようも
ない悪人であるといえ
ます。
（裏へ続く）

帰敬式のお誘い

今年の報恩講(十一月八日)より毎年、お勤めの後で希望者による帰敬式を執り行います。これは「おかみそり」ともいい、私たちが生前に法名を授かる儀式です。

従来、法名は人が亡くなった時に付ける名前と思われていますが、実は生きている間に自分の法名を付けてもらうものなのです。

帰敬式では男性は「釋」、女性は

「釋尼」という法名を授かります。

そのことは、お釈迦さまの名を一字戴き「私はこれからお釈迦さまの教えを聞き、人生を意義あるものとして生きていきます」という誓いの名でもあります。

ぜひこの機会に帰敬式を受けてご自分の法名を知り、真宗の門徒としての人生を歩んでいただきたいと思います。

詳しいご案内は後日いたしますが、どんなことでもお尋ねください。

【編集後記】

先月より住職がお参りの際、ウコンの黄色い布を持参しております。これは掛け軸を入れる袋を皆様に縫っていただくためです。

昨年より土蔵の整理を始めておりますが、お軸がたくさん出てきました。それを世話方さんと少しずつチェックしていますが、きちつと箱に入っている物もありますが、むき出しのお軸も二百本余りありました。

役員さんがお軸を入れる袋を作るための布を裁断して寄贈してくださいました。今、皆様方をお願いしているところです。

もうミシンを使っていないお家も多いのですが、なかには「ミシンは私のおもちゃ」といつてくださる頼もしい門徒さんもおられます。

普段お参りのないお家でも、縫っていただける方があればご連絡ください。

その後、夫である王を幽閉された后であるイダイケ夫人は憂い悩み苦しみます。そしてお釈迦さまにすがり救いを懇願するのです。その夫人に対してお釈迦さまは、靈鷲山で『法華経』を説いておられたのを中座して王舎城の夫人のもとへ飛ぶようにして駆けつけてこられます。

やがてイダイケ夫人はお釈迦さまの教えをよく聞き受け取って、ついに「阿弥陀のお浄土に生まれたい」と立ち上がることが出来たのです。

このことは、仏教の歴史の上で初めて仏法が地上の事実として開かれたこととなります。

「洪鐘響くと雖も、必ず扣くを待ちて方に鳴る」(『観経疏』)

どんなに大きな鐘も誰かが叩いて初めて音が鳴る。とあるようにダイバダツタが逆悪を起こした事が縁となって、私たちを救う大道が開かれたのです。